

重要

日本農林規格が一部改正されました。同封の新旧対照表をご覧ください。詳しくは講習会などで説明させていただきます。(3月27日に告示されました)

### ■お茶に特化した指定講習会レポート

昨年に引き続き「茶」に特化した講習会を3月17日(金)にハートピア京都で開催しました。先ず、生産者と加工業者、小分け業者のそれぞれの認定の範囲でできることを確認した後、荒茶の製造から仕上加工、包装の工程で行われる外部委託と出荷の違い、外部委託する場合の注意点と不適合事例について説明しました。専門分野セミナーでは、京都府農林水産技術センター主任研究員の徳丸晋氏に『京都府の有機茶園における病害虫の発生に及ぼす標高の影響』をテーマに講演していただきました。

徳丸研究員は緑茶ブームを背景に宇治茶の輸出・消費拡大への取り組みに向けて、2014年及び2015年4～11月の期間、京都府内の標高10～500mの5か所の有機茶園で、有機栽培茶園の標高(気温)と病害虫の発生の関係性について調査。その結果、標高約10～500mの場所では平均1.5～4.7℃の差があり、標高(気温)により発生する病害虫に違いがあることや有機園場で発生が少なかった病害虫がおおむね特定されたこと、標高が高くなり気温が下がると病害虫の発生は低下する傾向にあることがわかったと報告されました。(伏見)



### ■2月24日丹後農業改良普及センター：講習会



普及センターのお招きで、事務局長が有機JASの説明に行ってきました。本会で認定をすでに取得されている事業者さんのお話と、牛尾理事長の自家採種の話もあり、充実の講習会となりました。

### ■3月8日サポートファンド報告会：東京



昨年、助成をうけました Panasonic NPO サポートファンドの成果報告会に参加してきました。持ち時間10分で1年間の活動の報告をするのはたいへんで、時間オーバーの説明となりました！

### ■3月6日長野県佐久市：指定講習会



今回は特別に、新規で認定を取得したい若い世代の方のためにセミナー&指定講習会を開催しました。みっちりでしたが、楽しい時間となりました。

### ■3月10日京都市：セミナー&指定講習会



ハートピア京都で、有機農産物のセミナー&指定講習会を行いました。2月の丹後の講習会に参加された方が有機JAS取得に向けて受講されました。専門分野セミナーは検査員の中嶋さんで、とても好評でした。

### ▼△▼ホアス通信・編集後記▼△▼

このところ、「有機JAS認定を取りたい」という方のお問い合わせや、指定講習会の受講、新規の申請の方が増えています。また、あちこちでマルシェや味噌作りの会などをよく見かけるように思います。全体からみれば、まだまだかもしれませんが着実に有機の輪が広がっているようで嬉しく思います。(森井)

先日、練習中の鶯のさえずりに出会いました。もう上達している頃でしょうか？この4月で私もHOAS2年目、鶯に負けずに頑張りたいと思います。(北田)

【訃報】奈良の山村勝芳さん、神戸の西馬正さんをご逝去されました。山村さんは2000年、西馬さんは2001年からの認定事業者で、本会の会員でもあり、長きに渡り有機農業に尽力され、またどちらも立派な後継者を育てられました。ご生前のお姿を偲びつつ心から哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

#### <事務局の動き>

- 4月 20日(木) 判定委員会
- 5月 13日(土) 有機JASセミナー&指定講習会(加：神戸会場)
- 18日(木) 判定委員会
- 6月 8日(木) 有機JASセミナー&指定講習会(農：神戸会場)
- 15日(木) 判定委員会
- 16日(金) 有機JASセミナー&指定講習会(小・輸：神戸会場)

\* (農)有機農産物 (加)有機加工食品 (小・輸)小分け業者・輸入業者

\*有機JASセミナー&指定講習会の神戸会場は全て兵庫県中央労働センターです。

※4月14日の講習会は都合により中止となりました。ご了承ください。



持続可能な有機農業の輪を広げ  
つくる人・食べる人・つなげる人の有機的な関係を応援する  
有機JAS登録認定機関  
Hyogo Prefectural Organic Agriculture Society

特定非営利活動法人  
兵庫県有機農業研究会 HOAS  
〒650-0012  
神戸市中央区北長狭通 5-5-12  
TEL: 078-367-8567  
FAX: 078-367-8578  
E-mail: hyoyuken@hyoyuken.org  
http://www.hyoyuken.org/  
2017年4月1日発行 第16号

# HOAS 通信



## 『里池・里海』連携による豊かな海の再生と有機農業運動の新たな地平

公平性委員会委員長(兵庫大学経済情報学部) 池本廣希

今春も播磨灘にイカナゴ漁がやってきた。近所の台所からクギ煮で賑わう香りが春の到来を告げる。ところが最近、いかなごの不漁や明石海苔の色落ち(黄色くなる)などの問題が取り沙汰され、何か播磨灘に異変がおきているのか?地元明石の漁師さんは、「海がきれいになったのはいいことだと思われるが、きれいということは窒素やリンが減った証拠なのだ。海の栄養塩が不足しているからだ」と。海が豊かではなくなってしまったのだ。

思い返してみれば、1960年代の高度経済成長期に海底はヘドロ化し、瀬戸内海の水質は悪化した。そこで瀬戸内海の水質改善のための法律によって河川や海の水質は改善してきた。しかし、その改善は、コンクリート護岸に代表される近代化の促進と並行し、「栄養異変」とよばれる貧栄養の新たな水環境問題を引き起こしているようだ。

この問題の対策として、6、7年前から明石浦・林崎等の漁協といなみ野台地ため池協議会が連携し、栄養過多で困っているため池の水を「掻い掘り(池干し)」によって栄養の欲しい播磨灘に流し落とし、豊かな海の再生に活かそうとの試みが始まった。この両者のWin Winの成果は、今後のイカナゴ漁や明石海苔の収穫に期待されることである。

「きれい」と「豊かさ」とは必ずしも一致しない。里池と里海の連携は、「地域の栄養循環」を支える。これらのことから、有機農業のめざす環境創造型農業は、「地域の栄養循環」がキーワードとなるであろう。例えば、「地産地消」は、その土地でとれたものをその土地で食するというにとどまるのではなく、食べた後の排泄物をその土に返すことにある。「土から得たものは土に返す」ということにその存在意義がある。

播磨灘の豊かな海の再生もため池との栄養循環の常態化が決め手となる。ここにもう一つの有機農業運動の新しい地平が開かれるのではなかろうか。

### ホアス通信：目次

- ピオセボンに行ってきました P2
- グリーンピース・ジャパンによる調査レポート P4～P5
- 「新たな除草機等を活用した水稲有機栽培への挑戦」 P6



HOAS(ホアス)とは Hyogo Prefecture Organic Agriculture Society の略です。